

利江さまと由紀枝さまの感想、何度も繰り返し読ませていただきました。  
私の話をきちんと受け止めていただいたこと、とても嬉しく思っております。  
これまで、こうした形でお話をさせていただく中で「身の上話を長々と言って、  
押しつけがましい！」「身内の恥など晒すものではない！」などの批判の手紙も  
何通もいただきました。

そうした批判を聞くと、ただの自己満足で自分は言っているだけなのでは？と  
思ってしまいます。（自己満足は「話すと楽になる」ので、厳密には自己満足で  
はありませんが。今も、両親の話をする時は楽ではありませんから。）  
こうして、しっかり受け止めていただくと活動している意味を確認できるので、  
私の何よりの安定剤となります。

長野の日精協の学会では、勇気を出して話してきました。  
副会長のお一人が聞いて下さって後で声をかけてくれました。  
座長の先生からは「耳が痛い話を夏苺先生から聞きました」とはっきり言われ  
たので、伝わることは伝わったのだろうと思います。

長野の学会で私の発表を聞いたある方から、廊下で呼び止められました。複雑  
な家庭で生育されたそうです。

「僕は、夏苺先生の『恨みを原動力にしてきた』という言葉に、すごく共感し  
ました。僕自身、この歳になっても親への恨みを解決できていません。夏苺さ  
んは、あの内容の話を物柔らかな口調で語られる。それがかえって凄みさえ感  
じました。夏苺先生は、どうやって恨みを乗り越えたのか？」

・・・この方のお顔は、とても苦しそうでした。

私は、公表までの30年、石のような頑な心で過ごしました。  
この方にはこの方の「時間」が、きっと訪れると信じたいです。私の話を、心  
の片隅にでも留め置いてもらったら、そう願いました。

夏苺郁子